

令和6年1月18日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病初期から薬剤防除する。</li> <li>発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	オンシツコナジラミ	並	1月上旬発生量：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	タバココナジラミ	多	1月上旬発生量：多(+) 気象予報：日照時間並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>タバココナジラミは、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。</li> <li>施設内外の除草等で耕種的防除に努める。</li> <li>令和5年度病害虫発生予察注意報第2号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」及び令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。</li> </ul>
キャベツ	菌核病	やや多	1月上旬発生量 冬キャベツ：やや多(+) 春キャベツ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+) 降水量並か少(-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するよう、ていねいに行う。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 キ ユ ウ リ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発病初期から薬剤防除する。</li> <li>・ 窒素肥料の多追肥を避ける。</li> </ul>
	褐斑病	並	1月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除去した被害葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>・ 発病初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	菌核病	並	1月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発病果や発病葉は速やかに施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	べと病	並	1月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。</li> <li>・ 発病初期から薬剤防除する。</li> </ul>
冬 レ タ ス	菌核病	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か少（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li>・ トンネル内が多湿にならないよう、換気に努める。</li> </ul>
	腐敗病	やや少	1月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高（－） 降水量並か少（－）	
イ チ ゴ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発病初期から薬剤防除する。</li> <li>・ 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	アザミウマ類	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
	ハダニ類	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・ 葉裏に薬剤が十分付着するようていねいに散布する。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
施設野菜共通	灰色かび病	並	1月上旬発生量 冬春トマト：並〔発生なし〕 冬春キュウリ：並〔発生なし〕 イチゴ：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。</li> <li>発病葉、発病果は施設外へ持ち出し、適切に処分する。</li> <li><u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u>も参照。</li> </ul>
カーネーション	立枯病	並	12月下旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、施設外に持ち出し、適切に処分する。</li> </ul>
	アザミウマ類	並	12月下旬発生量：並 12月黄色粘着トラップ誘殺数： 並 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。</li> </ul>
	ハダニ類	並	12月下旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> </ul>
ストック	菌核病	並	12月下旬発生量 施設ストック：並〔発生なし〕 露地ストック：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（＋） 日照時間並か多（－） 降水量並か少（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。</li> <li>施設栽培では過湿にならないよう注意する。</li> </ul>
野菜・花き共通	コナガ	並	12月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：並 1月上旬発生量 冬キャベツ：並〔発生なし〕 春キャベツ：並〔発生なし〕 12月フェロモントラップ誘殺数： 少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か少（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。</li> <li>同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

## II これから注意を要する病害虫

### ナシ黒星病 ～ 春に向けて早期から注意が必要 ～

ナシ黒星病はりん片、新梢、葉、葉柄、果実に黒いすすがついたような病徴を示す病害である。本病への感染は落葉の原因となるほか、裂果や落果による減収につながることから、ナシにおける重要病害の一つとされている。本病は、罹病した落葉や腋花芽のりん片が第一次伝染源となり、3月以降に気温が高く、降水量が多いと伝染しやすくなる。

#### ＜昨年（令和5年）のナシ黒星病の調査結果およびこの結果から考えられること＞

病害虫防除課では県内34地点で、4月から10月にかけて月1回、ナシの病害虫調査を実施している。本調査では黒星病についても調査しており、昨年の調査結果は以下の通りであった。

4月の発病果率は0.91%（平年値0.13%）と、平年を大きく上回った（図1）。この要因の一つとして、3月に平年と比較して気温が高く（図2）、3月中旬および下旬に平年を上回る降雨があった（図3）ことが考えられる。

その後は、黒星病の発病葉率および発病果率は、おおむね平年並～やや少ない傾向で推移した（図1、図4）。

10月に実施したナシ黒星病の秋型病斑調査では、平年を上回る発病葉率となった（図5）。

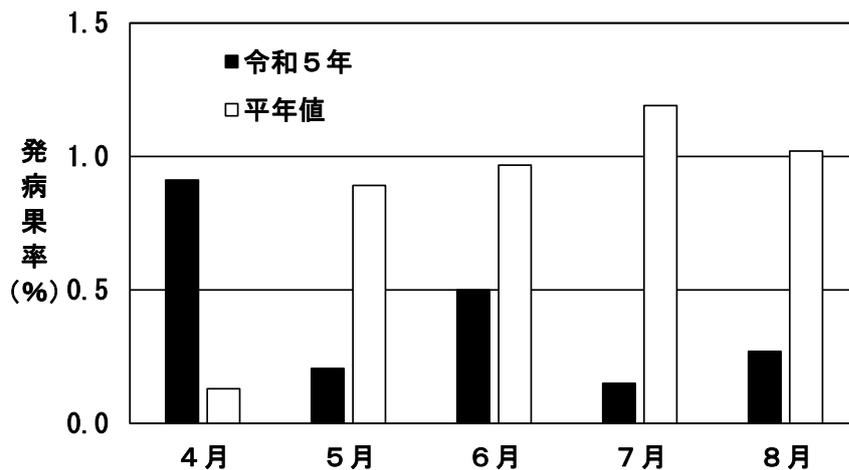


図1 ナシ黒星病の発病果率

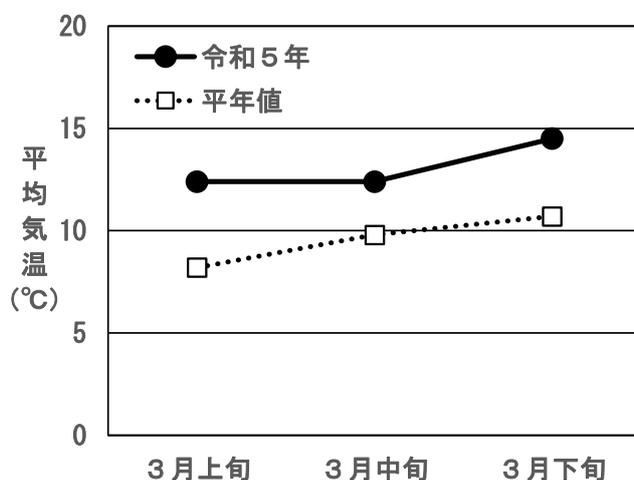


図2 令和5年3月の平均気温

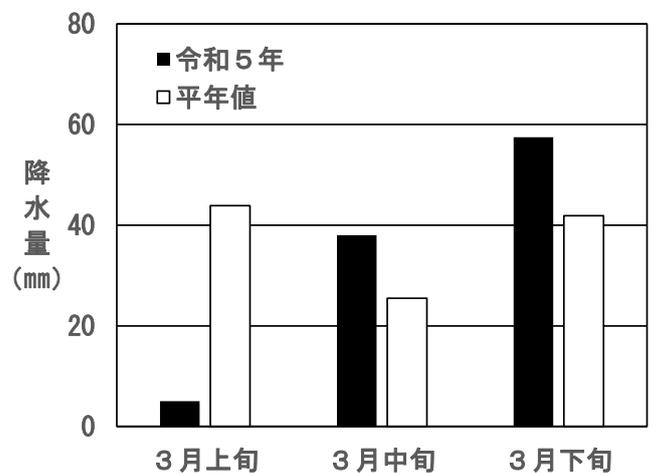


図3 令和5年3月の降水量

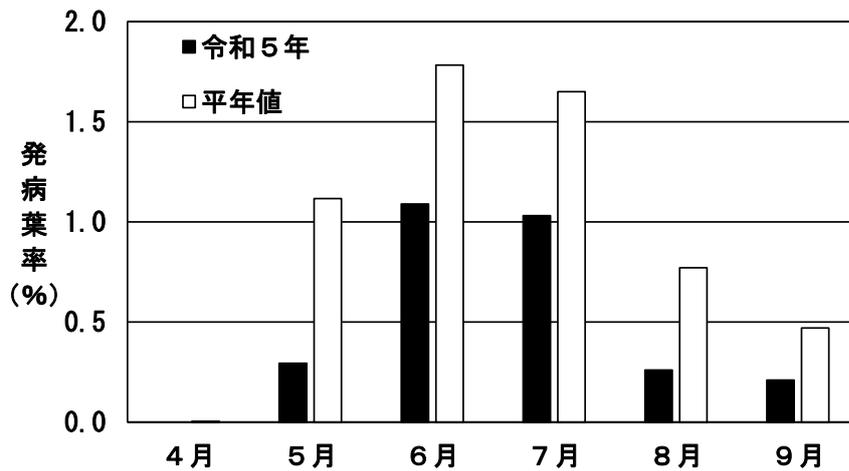


図4 ナシ黒星病の発病葉率

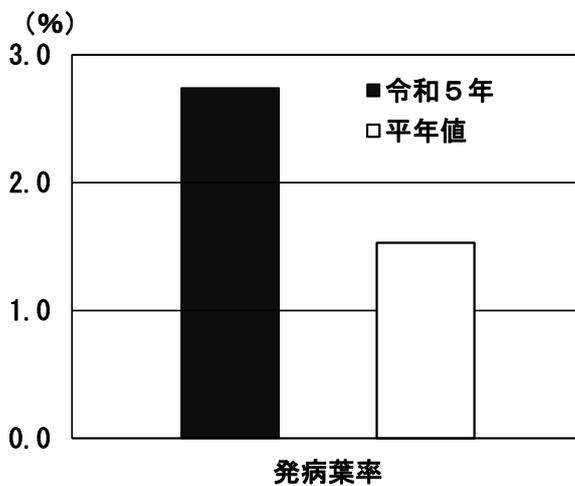


図5 ナシ黒星病（秋型病斑）の発病葉率（10月調査）

図1、図4および図5の平年値は、過去10年（平成25年～令和4年）の数値の平均値のことである。図2、図3は、気象庁のデータ（千葉）を用いており、平年値は平成3年～令和2年の30年間の平均を表している。

### <今後の注意点>

本病に罹病した落葉は翌年の第一次伝染源となる。そのため、落葉の除去など、秋冬季にも対策は必要である。

また、12月に気象庁が発表した3か月予報（関東甲信地方）では、3月の気温が平年並、平年より高い確率がそれぞれ40%、降水量は平年並の確率が40%となっている。このことから、ナシの生育ステージが早まり、昨年同様に早期から本病が発生する可能性がある。

これらのことから、防除作業等が遅れないよう、次ページの表を参考に早期から対策を講じる。

<防除法>

表 落葉期から摘果期までのナシ黒星病の防除 ※1

時期 ※2	防除方法 ※3※4※5	FRACコード ※6	希釈倍数 ※3	注意事項※3
落葉以降	落葉の処分			落葉は黒星病の有力な伝染源であるため、集めて園外に埋却するなど適切に処分する。
催芽期～ 発芽期 3月中旬～ 3月下旬	前年に黒星病が多発した園では、剪定後の長果枝先端部が催芽～発芽する時期にオーソサイド水和剤80の600～1,000倍液(3日前/9回、FRACコード：M4)を散布する。ただし、展開葉に薬害の恐れがあるので、散布が遅れないように注意する。また、ハーベストオイル(FRACコード：NC)との近接散布は避ける。			
りん片脱落 期 3月下旬～ 4月上旬	<b>被害芽の除去</b> チオノックフロアブル またはトレノックスフ ロアブル(30日前/5 回) 又はデランフロアブル (60日前/4回)	M3  M9	500倍  1,000倍	デランフロアブルは皮膚のかぶれが 問題となる場合があるので注意す る。
りん片脱落 終了後～ 開花直前  4月上旬	<b>芽基部発病芽の除去</b> マネージDF(21日前/3 回) チオノックフロアブルま たはトレノックスフロア ブル(30日前/5回)	3  M3	6,000～ 8,000倍  500倍	この時期の芽基部発病芽の除去は黒星 病防除に極めて重要である。 チオノックフロアブル、トレノックス フロアブルは黒星病の耐性菌の発生リ スクが少ない薬剤とされている。
開花期 4月中旬	<b>罹病芽基部の除去</b>			罹病芽基部の除去は黒星病の防除に極 めて重要である。
受粉終了後 4月中旬～ 4月下旬	スコア顆粒水和剤(14日 前/3回) チオノックフロアブルま たはトレノックスフロア ブル(30日前/5回)	3  M3	2,000～ 4,000倍  500倍	チオノックフロアブル、トレノックス フロアブルは黒星病の耐性菌の発生リ スクが少ない薬剤とされている。
5月上旬	チオノックフロアブルま たはトレノックスフロア ブル(30日前/5回) ファンタジスタ顆粒水和 剤(前日/3回)	M3  11	500倍  3,000～ 4,000倍	ファンタジスタ顆粒水和剤は黒星病、 心腐れ症(胴枯病菌による)対策のため 使用する。
5月中旬	ベルコートフロアブル (14日前/5回)	M7	1,500倍	黒星病の多発生が心配される場合には、 ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍液 (21日前/3回、FRACコード：9)とベル コートフロアブル1,500倍液(14日前/ 5回)を追加散布する。
摘果期 5月下旬	キノンドーフロアブルま たはドキリンフロアブル (3日前/9回)	M1	1,000倍	

- ※1 令和5年版農作物病害虫雑草防除指針(千葉県)から抜粋。農薬の登録内容は令和6年1月1日現在。  
 ※2 防除時期の欄に○月○旬の記載があるが、あくまでも目安であるため、生育状況に応じて対応する。  
 ※3 農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り  
 適正に使用する。  
 ※4 防除方法のうち、重要度が特に高いものは、太字で強調した。  
 ※5 薬剤名の後の(○/○)は、「収穫前使用日数/最大で使用できる回数」を示すが、異なる薬剤名でも  
 同成分が含まれていることがあるため、成分の使用回数にも注意する。  
 ※6 FRACコードとは、殺菌剤の作用の仕組みの分類を表すものである。病原菌の薬剤耐性の発達を防ぐた  
 め、同一コードの薬剤を連用しない。

## 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：1月上旬、花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (海匠、長生)	萎凋症	萎凋株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	1.20	1.80	2.80	
	疫病	発病株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.12	0.00	
	〃	果実発病度	0.00	0.01	0.00	
	すすかび病	発病株率 (%)	1.60	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.80	0.00	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	1.60	0.44	0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	1.00	10.08	0.80	
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.20	0.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	0.35	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.11	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	19.20	12.51	9.60	
	オンシツコナジラミ	寄生株率 (%)	0.80	1.55	1.60	
	タバココナジラミ	寄生株率 (%)	0.80	1.23	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.00	0.00	0.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	1.00	0.76	0.00	
	黒腐病	発病度	0.75	2.07	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.80	1.60	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.28	0.08	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.07	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.94	2.40	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.14	0.00	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.27	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	1.35	0.00	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.00	0.22	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.96	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
イチゴ (海匠、山武、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	2.00	3.80	2.82	
	〃	発病果率 (%)	0.03	0.25	0.02	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.05	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	5.25	2.94	4.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.25	0.43	0.94	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	8.75	21.53	6.12	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.56	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	5.20	10.60	2.13	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	12.00	14.20	4.80	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	1.80	2.20	2.32	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	3.14	0.00	
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	4.80	4.24	1.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	1.60	1.52	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	4.00	19.10	10.40	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.80	4.36	0.00	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	4.42	0.00	

### トラップ月間誘殺数 (12月)

単位: 頭/日

種類	病害虫名	トラップ設置場所	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.1	0.8	0.3	

## ○気象予報

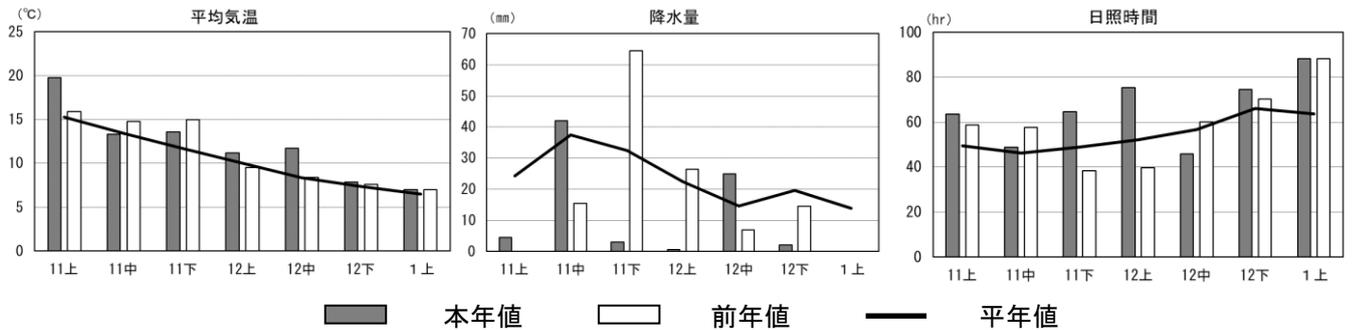
1月11日気象庁発表  
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(1月13日～2月12日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	6.0	6.5	6.3
降水量(mm)	70.5	104.8	80.6
日照時間(hr)	188.1	178.0	172.8



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は3月13日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

**千葉県農林総合研究センター病害虫防除課**

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

